【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成25年6月13日(2013.6.13)

【公表番号】特表2010-525237(P2010-525237A)
【公表日】平成22年7月22日(2010.7.22)
【年通号数】公開・登録公報2010-029
【出願番号】特願2010-504840(P2010-504840)
【国際特許分類】
Ｆ０３Ｂ　13/10　(2006.01)
Ｆ０３Ｂ　11/00　(2006.01)
Ｅ０２Ｄ　27/52　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０３Ｂ　13/10
Ｆ０３Ｂ　11/00　Ａ
Ｅ０２Ｄ　27/52　Ｚ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成25年4月23日(2013.4.23)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１６】
図１ｃにおいて、発電装置１を支持構造物２の上の所定の位置に保持するために、結合部又はクランプ機構３を動作させる。結合部は、図１ａに示されるように、発電装置１により支持される可動要素（又はクランプ部）３で構成される。図１ｂは、可動要素３を有する支持構造物２上に位置する発電装置１を示す。可動要素３は、解放位置にあり、すなわち、発電装置１と支持構造物２とが互いに離れて動くことができる解放位置にある。図１ｃにおいて、結合部の可動要素３をアクチュエータ（明確にするために図示せず）により、半径方向内側に、かみ合い位置まで動作する。可動要素３は、発電装置１と支持構造物２との、それぞれの対になる機構５と６とを一緒に保持し、発電装置１が支持構造物２から離れることを防ぐ。発電装置１が支持構造物２に対し回転できるために、可動要素３と対になる機構５と６との間にクリアランスを作る。結合部は、それによって、ヨー・ベアリングとして動作する。発電装置の対になる機構５の底の上のへり７は、水平方向の力を反応させるのに役立ち、水平方向の力は発電装置１に作用し、支持構造物２に入り込む。これは、このような機械的荷重の結合を軽減する。ヨー・ベアリングの回転の間だけでなく、取り外し可能な結合の係合の間の、ヨー・ベアリングの摩擦抵抗と磨耗を減少するために、発電装置と支持構造物との、それぞれの対になる機構５と６とに、低摩擦ベアリング・ライナーを備える。ナイロンベース又はマトリクス繊維の材料のような低摩擦材料から、これらのベアリング・ライナーを作ることができる。